

台風第13号に対する農作物等管理技術対策について

令和5年9月6日
埼玉県農林部

台風第13号は6日（水）現在、日本の南側に位置し、8日（金）頃には関東地方に接近し、湿った空気の影響により強い雨を降らせる恐れがあります。

そこで、農作物等管理技術対策資料を作成しましたので、参考としてください。

今後の台風の進路等の気象情報に十分注意し、早めの対応をお願いします。

（前：事前対策、後：事後対策）。

なお、高温・高湿下での農作業は、熱中症を引き起こしやすいので注意してください。

畑作、水田共通事項

前

- 1 安全第一とし、台風接近中や通過直後の河川や用水路が増水している場合には、ほ場の巡回は避け、水位が下がった段階で被害状況を確認する。
- 2 畑作ほ場では、排水路や暗きよの点検、必要に応じて排水溝の整備を行い、ほ場の停滞水を極力減らすように備える。
- 3 事前準備は台風接近前に終え、通過中は屋外での作業やほ場確認を避ける。

後

- 1 安全を確認できるまでは増水した河川や用排水路に近づいたり、管理作業を行わない。
- 2 通過後、天候が安定したら、病虫害の発生を防ぐため薬剤防除を行う。

ハウス共通事項

前

- 1 フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れるなどして補強する。周辺に風で飛散する物がないよう整理する。
- 2 いちご苗等で天井部のみ被覆しているハウスは入念に点検し、対策を講ずる。
- 3 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間からの風の吹込みを防ぐ。
- 4 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
- 5 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

水 稲

前

- 1 強風による穂ずれ、葉の損傷、倒伏等を防ぐため、可能な範囲でできるだけ深水

にしておく。

- 2 高温登熟で成熟期が早まっていることから、積算気温が刈取適期に達しているほ場では、台風が接近する前に収穫を始める。
- 3 収穫後の稲わらを搬出可能な場合は降雨前に搬出する。また、コンバインカッターで切断したほ場では早めにすき込み、排水路等ほ場外に流出しないよう心掛ける。
- 4 乾燥調製が終了した玄米は、雨漏りや浸水により濡れないよう保管に注意する。

後

- 1 冠水したほ場では、速やかに排水する。ただし、台風通過後に高温・強風が懸念される場合は、天候が安定するまで深めの湛水状態を保つ。
- 2 倒伏した場合、穂発芽の発生が心配されるため、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。
- 3 台風通過後は、穂枯性病害（もみ枯細菌病、内穎褐変病）や白葉枯病の発生が懸念されるため、収穫前日数に注意して可能なら薬剤散布を行う。

大豆

前

- 1 事前に排水溝が排水路につながっているか点検し、雨水が溜まらないようにする。

後

- 1 浸冠水したほ場では、滞水による根腐れを防ぐため、速やかに排水する。
- 2 排水が悪く、地力の高いほ場では、立枯性病害（茎疫病・黒根腐病等）を対象とした薬剤防除を行う。
- 3 強風で莢が擦れたほ場では腐敗粒の増加が懸念されるので、紫斑病と合わせて薬剤防除を行う。
- 4 台風前にべと病の発生が見られたほ場では、風雨により発生が増加するので薬剤防除を行う。

野菜

◎露地なす

前

- 1 強風に備えて、支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。

後

- 1 停滞水にとまなう根の活力低下が青枯病、半身萎凋病等の発生を助長するので、速やかに排水する。
- 2 台風通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので、速やかに薬剤散布を行う。
- 3 風雨でキズ等が発生し商品価値が低下する果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎施設きゅうり

後

- 1 台風通過後の急激な湿度低下による葉焼けを防止するため、施設の換気は徐々に行う。
- 2 施設の密閉や多湿によりべと病や褐斑病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。

◎いちご

前

- 1 ハウスの点検・補強をする。強風による損壊を防ぐため、雨よけハウスではビニールを縛り上げる等の対策を講じる。

後

- 1 育苗ほへの浸冠水は炭疽病や疫病の発生を助長するので、速やかな排水対策を行う。
- 2 遮光資材を適宜活用して、台風通過後の急激な温度上昇・乾燥を回避する。
- 3 風雨による炭疽病の発生拡大が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。
- 4 本ほに浸水した場合は、排水ポンプ等により強制的にほ場外に排水し、適期に定植できるよう準備を進める。

◎ねぎ

前

- 1 土寄せができる状態のものは、倒伏防止のため事前に土寄せを行う。

後

- 1 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、速やかに排水する。
- 2 天候が回復次第、軟腐病・白絹病等を対象に速やかに薬剤散布を行う。
- 3 収穫期のは場では、高温多湿による軟腐病が拡大する前に、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。

◎ブロッコリー、カリフラワー、キャベツ

前

- 1 育苗中のものは、強風にあおられないようハウス・トンネルを点検・補強する。特に寒冷紗などのすそは確実に土中に埋める。

後

- 1 風雨により軟腐病、黒腐病等の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

- 2 天候が回復次第、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 3 土壌が流亡した場合は、株の姿勢を修正し、株元に軽く土寄せを行って倒伏やねじれを防ぐ。

◎えだまめ

後

- 1 白絹病等の発生が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎さといも

後

- 1 風雨による疫病の発生が懸念されるので、天候回復後速やかに薬剤散布を行う。

◎にんじん

後

- 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

◎こまつななど軟弱野菜

後

- 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤散布を行う。

果 樹

前

- 1 収穫できる果実は事前に収穫する。
- 2 棚や支柱、網などを点検・補強し、樹体や棚の揺れを少なくする。
- 3 苗木については、主幹部の株元にビニールを巻くなどし、土はねを防ぐ。

後

- 1 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。
- 2 葉・枝の損傷が発生した場合は、なしでは黒星病、疫病、胴枯病、ぶどうではべと病や晩腐病、いちじくでは疫病、りんごでは腐らん病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

特に、降雹害を受けた園では、薬剤防除を必ず実施し、樹体の保護に努める。

花植木

前

- 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。

後

- 1 倒伏した株は起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
- 2 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。
- 3 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。
- 4 キク・宿根アスター等の栽培に係る電照・補光関連施設（電球、タイマー等）については、速やかに作動状況を点検する。

茶

前

- 1 被覆棚を点検し、被覆資材を縛っておく。
- 2 製茶工場は雨水が侵入しないように十分に点検する。

後

- 1 強風などにより枝葉の損傷が生じた場合、輪斑病が発生しやすくなり、降雨によって炭疽病が発生しやすくなるので、炭疽病に弱い「さやまかおり」や炭疽病が常発するほ場を中心に薬剤防除を行う。
- 2 雨水等の浸水により表土が流された場合は、堆肥等の施用により地力の回復に努める。
- 3 製茶工場や防霜ファン、被覆棚、茶園の法面等を点検し、破損等を確認した場合は修復を行う。

飼料作物

後

- 1 飼料用トウモロコシが倒伏した場合、収穫適期である黄熟期まで20日以上前（乳熟期より前）であれば先端の起きあがりを待ってから収穫・貯蔵を行う。
- 2 土砂の混入はサイレージ発酵の品質低下を招くので、収穫時には混入しないよう刈高を調整する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

◎農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

- ・ 農林水産省 農薬登録情報提供システム

<https://pesticide.maff.go.jp/>

◎農作業中の熱中症にご注意ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0903/keieitai/nousagyounnzen/nettyuusyuu.html>